

# こども食堂



---

インクルいわて  
包括的こども食堂  
事業報告書



---

# CONTENTS

## 03 はじめに

理事長挨拶

支えあう仕組みを創る

## 05 インクルいわてとは

## 08 インクル子ども食堂 事業概要

社会的背景と事業目標

インクル子ども食堂 概要

1. 実施体制

2. 活動内容

3. 開催の様子

4. 成果と課題

5. おわりに

※参考資料: 子ども食堂チラシ(2016年11月開催分)

## 18 インクル子ども食堂事業

### 評価報告書

特定非営利活動法人Gender Action Platform

1. 目的

2. 評価の方法

3. 「貧困」および「子ども食堂」の定義

4. インクル子ども食堂とは

5. インクル子ども食堂は、誰に、何を提供しているか

6. インクル子ども食堂の付加価値と成功要因

7. 今後に向けた提言

---

# はじめに

## 理事長挨拶

東日本大震災（2011年3月11日）を機に、インクルいわては設立しました。すべての人が社会の一員として包摂されるよう「社会的包摂」（Social Inclusion = ソーシャル・インクルージョン）の理念を団体名に取り入れ、震災によって、または震災前から様々な困難を抱えている方々、ひとり親、子どもたちと共に歩もうと活動してまいりました。ひとり親家族の抱える課題には、現代社会の課題と矛盾が凝縮されています。それは社会の仕組みが人々を包摂する仕組みになっていないことを示し、すべての人の生きにくさを示唆しています。また、日々変化する社会情勢とともに、目の前の課題も否応なく変化していきます。家族のカタチが急速に変わり、雇用の問題、個人化が進む中で、「社会的孤立」の問題が明らかになり、被災地ではコミュニティ再生の課題と重なります。「喪失」を「損失」では埋められず、制度や仕組みも追いついてはいません。家族や、地域社会はこうあるべきという懐古的な規範意識では、社会の変化、きしみ、ゆがみに対応できず、これからの子ども、若者、また女性、男性、LGBT、すべての人の「生きにくさ」につながり、課題が深刻化します。

求められているのは、現実には起きている「子どもの貧困」や「社会的孤立」の問題ときちんと向き合い、実態に即してしなやかに対応すること。そして「我が事」と考えること。

ひとりひとりを受けとめる新しい仕組みをつくり、生きやすい社会をつくること。

これらはこれまでの活動の中で、子どもたち、お母さん、お父さんそして被災者の方々から教わったことです。

とても見えにくく、気づきにくい「子ども」の貧困対策は、単一の支援のみでは困難です。課題を包括的に捉え、その背景を知り多くの人々が子どもたちに寄り添う。そんな仕組みは子どもを守り、大人を生きにくさから解放し、地域を育て、未来をつくります。

いろんな人がいるから「町」になる。「見えるもの」「気づき」は人によって異なりますが、誰もが同じテーブルにつくことができるキーワードが「食」です。

誰もが「子ども」でした。「インクルこども食堂」は子どもがひとりでも安心して居られる地域の居場所。多くの可能性を秘め、すべての人の「生きる」につながり、誰もが相互に尊重し支え合い人々の多様な在り方を認め合える「全員参加型」の場となっています。

最後に、この取り組みにご支援くださいました特定非営利活動法人 JEN の皆さま、第三者評価をいただきました特定非営利活動法人 Gender Action Platform の皆さま、そしてインクルこども食堂に関わるすべての皆さまに厚くお礼申し上げます。

平成29年3月  
特定非営利活動法人インクルいわて  
理事長 山屋 理恵

---

## 支えあう仕組みを創る

JEN は、世界各地で紛争や自然災害により厳しい状況にある人びとへ「生きる力、を支えていく」をモットーに、緊急から復興の各段階で地域に寄り添う支援活動を行う国際協力 NGO です。

JEN は東日本大震災直後から被災地に入り、緊急・復興支援を通じて、地域の方々の課題解決にいかにも寄り添っていきけるのかを自らに問いかけながら事業を展開して参りました。現在は被災地の地元の NPO とパートナーシップを組んで、「誰一人取り残されない社会」の仕組みのモデルになる事業に対して、計画から実施、政策提言に至るまで多面的な支援を行っています。

国際協力の場では、災害後の復興において、ただ「元の状態」に戻すのではなく、災害発生以前からあった問題も復興を通じて解決していくことこそが、災害に強い社会を創るうえで欠かせない、という考え方が広く共有され、様々な国際的な枠組みや基準に盛り込まれています。

JEN は東北でも、災害前からある課題解決に創造的に取り組む地元の NPO を支えることこそが復興の大きな力になると考え、特定非営利活動法人インクルいわてとは 2016 年初頭からパートナーシップを組み、「インクルこども食堂」のモデル事業の形成と実施を支援してきました。1 年間かけて、盛岡や全国の協力者の方々と支援の専門家であるインクルいわての皆様、そして何よりも「インクルこども食堂」に集う方々自身の手によって創りあげられてきた事業モデルは、外部評価報告書にあるとおり、様々な事業に適用できる示唆に富んでいます。

盛岡から発信されるインクルこども食堂の「支えあう仕組み」のメッセージが東北の被災地、そして全国で子どもやひとり親支援に取り組む方々の力になれば幸いです。

平成29年3月

特定非営利活動法人 ジェン(JEN)  
東北事業統括 高橋 聖子

### 特定非営利活動法人ジェン(JEN)

1994 年に設立された国際協力 NGO。現在、アジア・中近東 6 カ国で難民キャンプの水や衛生施設の提供、被災地の生活再建等幅広い支援事業を展開している。東日本大震災では、直後から被災地に入り緊急支援を実施。現在は、様々な被災地の社会課題に取り組む岩手・宮城・福島県の NPO や専門団体とパートナーシップを組み、資金面を提供しながら、事業計画・実施・モニタリング・評価・政策提言を全面的にサポートしている。

<http://www.jen-npo.org/>